

# 平成 25 年度長野県スポーツ推進審議会会議録

## 1 日 時

平成 26 年（2014 年）3 月 24 日（月）  
午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

## 2 場 所

長野県庁 8 階 教育委員会室

## 3 出席者

### ○ 委 員

青木辰子委員、甘利道子委員、荻原健司委員、久保田勝士委員  
白井久仁子委員、関明美委員、藤沢謙一郎委員、矢島富士雄委員  
山岸洋子委員、吉羽健二委員

### ○ 長野県教育委員会事務局

教育長 伊藤学司、スポーツ課長 茅野繁巳、同企画幹 内山充栄  
同学校体育係長 加瀬浩明、同体育スポーツ振興係長 小林武広  
同管理係担当係長 峯村高広 ほか

### ○ 健康福祉部

障害者支援課課長補佐兼社会生活係長 高池武史

## 4 議事録

### （内山企画幹）

大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから、平成 25 年度長野県スポーツ推進審議会を始めさせていただきます。

私は、スポーツ課課長補佐の内山充栄と申します。議長が選出されるまでの間、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

初めに、長野県教育委員会伊藤学司教育長からご挨拶を申し上げます。

### （伊藤教育長）

皆さん、こんにちは。スポーツ推進審議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶と御礼を申し上げます。

委員の皆様には大変ご多忙のところ、本審議会委員の委嘱に当たりましては、快く

お引き受けをいただきましてありがとうございます。また山岸委員、吉羽委員におかれましては、公募に応募いただきましたことを深く感謝を申し上げます。

また、本日は年度末の大変お忙しい中、本審議会にご出席をいただきましたことを、重ねて御礼を申し上げます。委員の皆様には、今日からこの2年間、本県のスポーツ推進について格別なご指導、ご尽力を賜ることになりますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、昨年の2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、また、つい先ごろまで大変熱戦が繰り広げられていましたソチオリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍など、スポーツに対する関心と期待は大変高まっております。

先週閉会をいたしましたけれども、今年の県議会では38人の県議さんのうち12人がスポーツの振興、スポーツ関連のご質問をされるということで、大変県のスポーツ施策に関心が高まってきているところでございます。この機会に、最近の本県のスポーツをめぐる状況について簡単にご報告をさせていただきたいというふうに思います。

まず、児童・生徒の体力の問題でございますけれども、昭和60年ごろをピークに低下傾向が続いてございまして、全国平均との比較では特に女子のほうが低い水準にあること、その中でも中学生女子はかなり全国水準と比べても低いということ、またさらに運動する子どもと運動しない子どもの二極化ということが現状として大きな課題になっているところでございます。

このため、私どもとしましては、小中学校におきまして体力向上プランの作成や、1校1運動を引き続き実施するほか、来年度は小さいときからスポーツ好きを増やしていこうということで、幼児期を対象とした長野県版運動プログラムを開発し、幼稚園・保育所等とも連携をしながら、幼児期から中学生期までの一貫した体力・運動能力の向上に取り組む予定にしております。

また、中学校段階では運動部加入率が年々低下をしており、全国平均から見てもかなり低く、運動離れが懸念をされているところでございますし、また、バランスのとれた生活や将来にわたってスポーツに親しむ基盤づくりの面からも課題が指摘されてございます。このため、長野県中学生期のスポーツ活動指針というものを先だって策定をいたしまして、心身の成長過程にある中学生期にとってのスポーツ活動が適切で効果的な活動として実施されるよう、学校や市町村教育委員会と連携協力しながら取り組んでいくことにしております。

次に、スポーツ振興の観点で申し上げます。熱戦が繰り広げられたソチオリンピック・パラリンピックでの本県関係選手の活躍は、多くの県民に誇りと喜び、夢や感動を与えていただいたところでございます。こうした国際大会や全国大会での選手の活躍は、スポーツへの関心や参加意欲を高め、社会に活力を生み出す原動力でございます。来年度は国際舞台や全国規模での大会での活躍を目指す競技者の育成強化を引き続き支援するほか、新たに2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも活躍が期待される若手選手の育成支援に取り組む予定にしております。

県教育委員会では、さまざまな課題はございますけれども、三本柱で来年度取り組もうということで、一つは学力の向上、もう一つは全ての子どもの学びの保障、そして三つ目の大きな柱として、体力向上とスポーツの振興を掲げているところでござい

ます。特にこの体力向上、スポーツの振興に関しましては、前回のこの審議会でご議論をいただき策定をいたしました長野県スポーツ推進計画に掲げた目標の達成に向け、さらに取組を加速させる所存でございます。

今日は、委員改正後の第1回目の審議会ということで、本県のスポーツの現状や来年度の事業計画などにつきまして、事務局から説明をさせていただいた後、委員の皆様には忌憚のない立場からさまざまな大所高所のご意見を頂戴できればというふうに思っております。

どうぞよろしくお願いたします。

#### (内山企画幹)

本日は新しい委員さんによります初めての審議会でございます。ここで各委員さんからそれぞれ自己紹介をいただきたいと思っております。

今、お手元に会議の次第がございますが、1枚めくっていただいたところに委員の名簿がございます。恐れ入りますが名簿順ということで、青木委員さんから順次お願いできればと思います。よろしくお願いたします。

#### (青木委員)

こんにちは。青木辰子と申します。

私は幼いころからスポーツというか体を動かすことが大好きで、ずっと続けていたのですが、途中で障がいを負いまして、今車椅子生活をしている身です。その中で、パラリンピックも経験させていただいたりしまして、この場でそういう経験、または障がい者としての立場から、何か私でもお伝えできることがあればと思ってお引き受けいたしました。

皆様と2年間、意見交換をさせていただきながら、私自身も勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

#### (甘利委員)

皆さん、こんにちは。私は、甘利道子と申します。

もともとは長野県の高校、保健体育の教員として、26年間勤めた後、早期に退職をいたしました。9年前のことになります。それから地元で退職の理由にもなったことですが、体操を通してこの地域の皆さんに何か役立つことができないだろうか、それから大きな夢ですが、世界に羽ばたいていくようなアスリートを育成できないかというとてもない理想に向かって歩み始めて2度目の人生を送っているところであります。

ジムナスティック・ネットワークというのは、NPO法人であります。県の総合型地域スポーツクラブ連盟に加盟しております。また、県の地域づくりネットワークのほうにも加盟しております。私は大北支部の支部長を2年間やってやっと任期が終わるといような、そういうような活動しております。どうぞよろしくお願いたします。

**(荻原委員)**

皆さん、こんにちは。荻原健司でございます。

元ノルディックスキー・コンバインドオリンピック選手とありますけども、北野建設のスキー部のジェネラルマネジャーを務めております。

この審議会の委員にさせていただいたのは大変名誉なことだと思っております。

私的なことですが、先のソチオリンピックで当社スキー部員が銀メダル、銅メダルを獲得することができました。これも一重に長野県、そして体協の皆さんの日ごろのご支援の賜物と思っておりますし、またご出席の皆さんにも心から感謝を申し上げたいと思います。しっかりと務めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**(久保田委員)**

高山村長の久保田でございますが、このようなスポーツについてはまことに私は余り縁がないほうでございますが、そんな立場の中でこういった非常に大切な審議会委員として、市町村の立場から十分なことを申し上げられるかちょっと疑問に思っております。けれども、やはり地方団体におきまして、スポーツの振興というのは基本的なことではないかと、こんなふうに思っています。長野県でも、健康長寿の社会を目指してということでありまして、やはり通ずるものはスポーツの振興ではないかと、そんなふうに思っています。

そういった点では、今市町村では総合型のスポーツクラブという、この振興を随分頑張らせていただいているのですけれども、なかなか現場のほうは厳しいようでございます。どんどん衰退していっちゃう、逆に進行してしまうのではないかなというふうにちょっと危惧しておるところでございます。しかし、まさにこのスポーツ、いつでもどこでも誰もが親しめる、これがスポーツ振興の底辺ではないかなと、そんなふうに思っております。そんなことからできるだけこのスポーツ振興は県内でも、広く子どもさんから高齢者の皆さんまで親しめる中で、もう一面のスポーツの競技力の向上につながっていけばいいかなとこんなふうに思っております。

そんなことで、皆さん方の勉強をさせていただきながら、ご一緒に何かあればと思い、こんな立場で参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

**(白井委員)**

白井久仁子と申します。軽井沢町のほうでスポーツ推進委員をしております。2期目ということでお声をかけていただきまして、大変光栄なことと思います。

私には、19歳以上の子どもが2人おりまして、その2人から今たくさんのお話を学んでおります。スポーツ関係の大学に進んでいる子どもがおりますので、いろいろなことを学びながら、今軽井沢町のほうでスポーツ推進委員という名前を借り、いろいろなことを教えております。

皆さんと同じぐらいの年齢の方から幼稚園生、保育園生、小学生を相手に水泳教室の教員として教えておりまして、その中でも子どもの目を通してこんなことを子どもたちは今感じているのかなということを私自身が学習し、勉強させてもらっていると

いう実態です。昔はスピードスケートをしておりまして、そのころ選手という立場でいろいろなことを経験し、また子育てをしながら母親という経験をしまして、その中で今、スポーツというものについて、どのように楽しさを伝えていったらいいかなということ、私はとにかく楽しいということ、伝えていきたいなということ、考えながら指導しているところです。

今後、また皆さんと2年間いろいろなお話をしていく中で、いいお仲間として過ごさせていたいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### （関委員）

皆様、こんにちは。関明美と申します。諏訪市の教育委員長をさせていただいております。

このような大役を仰せつかりましたけれども、自分自身があまりスポーツと言われても、今何もやっておりません。高校のときにはスピードスケートをやっておりましたけれども、主婦とかお勤めとかとなるとなかなかスポーツの機会というものがなくて、それも甘んじて本当に何もしていないくらいです。この会に来ることも申し訳ないと思うのですが、今やっている役職の中で今の子どもたちの体力、中学校の女子ということも言われましたし、確かにいろいろな面でとても危惧するところが多くございまして、とりあえず自分のことは棚に上げまして、そういうようなところの現実、小学校、中学校について、もし分かることがございましたら、また意見も述べさせていただきながら、いろいろ学ばせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### （藤沢委員）

こんにちは。高等学校、それから大学と、結局47年間教員として、また研究者として70歳まで勤めたのですけれども、今は地域の区長とかいろいろなことを経験させてもらっています。もともと私の研究は、発育発達等老化の過程（プロセス）におけるスポーツを含めた身体活動の意義というのが大きくまとめたテーマですね。

ソチオリンピック・パラリンピックをですね、夜中にテレビ等で見て、まさに今度のこのスポーツ推進計画のスポーツの持つ力というのをいろんな意味でまざまざと受けとめました。今までの経験を生かして、何か長野県のスポーツの発展に寄与することができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### （矢島委員）

皆様、こんにちは。長野県の高等学校体育連盟の会長を務めさせていただいております、野沢南高等学校校長の矢島富士雄と申します。よろしくお願いいたします。

この職を受けてから1年目ということでありまして、私自身も高校の体育の教師でありまして、平成10年からスポーツ行政に若干関わらせていただいたりしております。今いろいろお話があるわけですが、やはり学校現場の子どもたちの様子を見ますと、勉強とそして部活動と両方を一生懸命取り組む生徒は、非常に生き生きしているなどこんなふうに思っております。その生き生き活動している子どもたちの環境を整

えるのが大きな私の役割かと、自覚しておるところであります。

特に学校現場でいろいろお話を伺っていると、地域のスポーツ活動と学校との連携と申しますか、今中学校のほうでも話題になっています運動部活動での社会体育と学校体育の実態というのがなかなかリンクしていないなというふうに思っております。

佐久市のスポーツ推進委員という立場も引き受けておりますので、そこで市町村のスポーツ振興を、そして県のスポーツ振興をこの審議会の中で学ばせていただいて、よりよい高体連の活動のもとになればとこんなふうに今思っておるところであります。またいろいろお世話になりますが、よろしく願いいたします。

#### (山岸委員)

皆さん、こんにちは。伊那市総合型地域スポーツクラブのマネジャーをさせていただいております山岸洋子です。

この度は、現場の声を届けるチャンスと思い、積極的に参加させていただこうと思って参りました。

小さなころから体育の授業が自分の生きがいで、運動することにトキメキを感じ、今日ここに来るまでずっとそんなエネルギーの中で生かさせていただいております。そういった中で、全ての子どもからお年寄りが体を動かすことのトキメキを失わないような安定した環境や場所づくり仲間・関係づくりをしていきたいと思い、現在総合型スポーツクラブで、いろいろな課題、問題を抱えながら活動をさせていただいております。

県の指針であるスポーツが変える人や地域や未来という言葉に賛同しておりますので、現場の声を少しでも届けていきたいと思っています。2年間、どうかよろしく願いいたします。

#### (吉羽委員)

こんにちは。吉羽健二と申します。スポーツはアイスホッケーをずっとやっています、仕事としては長野県や群馬県のゴルフ場、スキー場、スケート場などの管理業務を経験し、たまたま長野オリンピックで秘書業務をしてからは、スポーツに非常に関心を持って参りました。

たまたま企業スポーツということで、自分のところが優勝すればいいとだけ考えていた時代もあったのですが、今はどこの団体にも所属しておりませんので、楽しく浅く広く、いろいろなスポーツをこれから勉強して楽しみたいと思います。どうぞ、今後2年間よろしく願いいたします。

#### (内山企画幹)

どうもありがとうございました。

続きまして、県側の出席者を自己紹介させていただきたいと思っております。

資料をめくっていただいたところに配席図がございます。係長以上の職員のみですが、名前が書いてありますので参考にご覧いただければと思います。

**(伊藤教育長)**

改めまして教育長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**(茅野課長)**

皆さん、こんにちは。昨年の4月からスポーツ課長を務めております茅野繁巳でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**(内山企画幹)**

課長補佐をしております内山と申します。よろしくお願いいたします。

**(高池障害者支援課課長補佐兼社会生活係長)**

障害者支援課社会生活係長の高池と申します。障がい者スポーツを担当しております。よろしくお願いいたします。

**(加瀬学校体育係長)**

スポーツ課学校体育係長の加瀬浩明と申します。よろしくお願いいたします。

**(小林体育スポーツ振興係長)**

スポーツ課体育スポーツ振興係長小林武広と申します。よろしくお願いいたします。

**(峯村担当係長)**

同じくスポーツ課管理係の峯村高広と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**(出口指導主事)**

スポーツ課学校体育係で指導主事をやっております出口哲朗と申します。よろしくお願いいたします。

**(飯嶋指導主事)**

同じくスポーツ課体育スポーツ振興係の飯嶋政泰と申します。よろしくお願いいたします。

**(山崎指導主事)**

こんにちは、教育委員会スポーツ課学校体育係の山崎芳弘と申します。よろしくお願いいたします。

**(矢野主事)**

同じくスポーツ課管理係の矢野萌子と申します。よろしくお願いいたします。

**(内山企画幹)**

以上でございます。よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、定足数をご報告させていただきます。

本日は、審議会委員 10 名全員の皆様のご出席をいただいております。審議会条例の規定に従いまして、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

次に、会長選出に移らせていただきます。

初めての審議会ということでございますので、会長の選出をお願いしたいと思っております。会長の選出につきましては、審議会条例の規定によりまして、委員の互選によるということにされておりますので、委員の皆様から立候補、または推薦等があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

青木委員さん、お願いします。

**(青木委員)**

今までのご経歴を踏まえまして、藤沢委員さんをお願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。

**(内山企画幹)**

ただいま、藤沢委員にというご発言がありました。

改めてお諮りいたします。

藤沢委員をお願いするというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

**(内山企画幹)**

ありがとうございました。

それでは、会長は藤沢委員をお願いしたいと思います。

ではここで、藤沢会長さんからご挨拶をお願いいたします。

**(藤沢会長)**

ただいま皆さんからの推薦でこの審議会の会長を務めることになりました。よろしくお願いしたいと思います。

審議会は、限られた時間でたくさんの方がございまして、今それぞれご紹介いただきました自己紹介の中で、多彩な方々がそれぞれのお立場でスポーツ振興に対してさまざまにご意見をお持ちかと思っております。会長としては、皆様方のご意見を拝聴して、その結果を長野県のスポーツの推進にできるだけ役立てるような形で話を進めまとめていきたいと思っております。この事務局を預かる教育委員会のスポーツ課、あるいは障がい者支援課のスポーツの関係ですね、大変なお仕事だと思いますけれども、県民の幸せのために、先ほどのスポーツの力というものがある今一番盛り上がっているのではないかと思います。予算の少ない中で大変だと思いますけれども、私たち審議会の審議内容を施策に生かしていただければありがたいと、そんな気持ちで会長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。



**(内山企画幹)**

ありがとうございました。

では次に、職務代理者についてでございます。会長職務代理者につきましては、審議会の条例の規定によりまして、会長に事故があるときはあらかじめ会長の指名した委員がその職務を代理するというにされております。

つきましては、藤沢会長から職務代理者の指名をしていただきたいと思いますと思いますが、よろしく願いいたします。

**(藤沢会長)**

それでは、長野県高等学校体育連盟会長である矢島委員さんをお願いしたいと思えますけれども、よろしく願いいたします。

**(内山企画幹)**

藤沢会長から矢島委員にというご指名がございました。

それでは、矢島職務代理者から一言ご挨拶をお願いいたします。

**(矢島会長職務代理者)**

ただいま藤沢会長のほうからご指名をいただきました。私にとって身に余る大役ですが、会長さんの語られたスポーツに対する思いを実現するようにサポートしてまいりたいと思えます。ご協力よろしく願いします。

**(内山企画幹)**

それでは、これより議事に移らせていただきたいと思います。

審議会条例の規定によりまして、会長が議長を務めることとなっておりますので、藤沢会長は議長席のほうにご移動をお願いいたします。

この場をお借りしてすみませんが、本日の資料の説明をさせていただきたいと思います。お手元にクリップどめで資料をお渡ししてございますが、クリップを外していただきますと右肩に資料ナンバー1から資料ナンバー8までの資料があるかと思えます。もし途中で何か不足するようなことがありましたら、お声かけいただければというふうに思えます。よろしく願いいたします。

それでは、藤沢議長、よろしく願いいたします。

**(藤沢会長)**

それでは、これから議事に入りたいと思えますけれども、お手元にスポーツ推進審議会次第がございますので、それをご覧いただきたいと思います。

議事ですけれども、大きく分けると何かを決めるということは、今回はないようでございます。その代わりとして報告事項がございます。冒頭、伊藤教育長から大体のところはお話ございましたけれども、そういったことを含めた報告と、それから2番目に今後の本県のスポーツ推進に係る意見交換ということがあります。この部分を私は大事にしたいなというふうに思っています。

また、聞きますと、教育長には最後まで同席いただけるということですので、大変ありがたいと思っています。いろんな意味で活発なご意見等、懇談ができればありがたいと思っていますので、これから報告事項に入っていきたいと思います。

それでは、終了時間をおおむね3時30分ということで目途としますので、ご協力いただきながらお願いしたいと思います。

それでは、報告事項のまず1ですね、その後2について、最初に事務局からお話いただきたいと思います。

それでは、お願いします。

#### (茅野課長)

はい、よろしくお願いいたします。

それでは、私のほうからアの長野県スポーツ推進審議会についてと、イの長野県スポーツ推進計画についてご説明をさせていただきたいと思います。

お手元の資料の1をお願いいたします。長野県スポーツ推進審議会についてでございます。今回、半数の委員さんが代わられましたので、改めて長野県スポーツ推進審議会の概要をご説明いたします。

まず1の設置根拠でございますが、裏面2ページに長野県スポーツ推進審議会条例をお示ししてございますが、第1条でスポーツ基本法第31条の規定による地方スポーツ推進計画その他のスポーツ推進に関する重要事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関として、長野県スポーツ推進審議会を設置すると規定されております。

1ページに戻っていただきまして、2の審議会の職務でございますが、ただいま申し上げました地方スポーツ推進計画に関する重要事項の調査審議、及びその他のスポーツ推進に関する重要事項の調査審議でございます。委員任期中の2年間における審議事項等は点線で囲ってあります、長野県スポーツ推進計画の評価・検証ですとか、県のスポーツ施策に対する提言及び意見等をお願いするものでございます。

参考までに、資料の3ページ、4ページに長野県スポーツ推進計画の評価検証のための調書案というものをお示ししてございます。これは様式でございますが、次回の審議会ではこの様式で作成しました調書に基づきまして、平成25年度の評価検証をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

3の委員委嘱の根拠以下は記載のとおりでございますが、審議会委員の皆様の任期は教育委員会定例会で決定いたしました、平成26年2月13日から平成28年2月12日までとさせていただきます。

続きまして、報告事項のイの長野県スポーツ推進計画についてご説明をいたします。資料の2をお願いいたします。

長野県スポーツ推進計画概要版というものと、水色の冊子でございますが、資料をご用意させていただいております。説明はA3のこの概要版のほうでご説明したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず第1章、計画策定の基本的考え方でございます。計画策定の趣旨でございますが、スポーツ基本法の趣旨及び本県におけるスポーツ行政を取り巻く現状を踏まえ、今後の本県のスポーツ行政を総合的に推進するための指針として、また計画の性格で

ございますが、長野県総合5か年計画、しあわせ信州創造プラン、及び第2次長野県教育振興基本計画に対応する体育・スポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策の推進計画として策定したもので、計画期間は平成25年度から29年度までの5か年計画でございます。

第2章、計画の基本理念でございます。スポーツが一人一人の暮らしや地域、その明るい未来を創造する牽引役となることを願い、「スポーツが変える ～人・暮らし・地域・未来～」と定めたところでございます。

第3章、計画の基本目標と施策の展開方策でございます。六つの基本目標を定め、それぞれの5年後の目指す姿を掲げ実現に向けて必要な施策を展開していくことといたしました。

まず、基本目標の1でございます。学校と地域における子どものスポーツ機会の充実でございます。本県の子どもの体力は全国と比較いたしまして、特に女子が低い水準で推移し、また、運動・スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が顕著になるなどの課題が指摘されておるところでございます。5年後の目指す姿として長野県版運動プログラムが幼稚園、保育園、学校、地域のクラブ等に普及して、運動やスポーツをする元気な子どもが増加していますということで、そのために子どもの成長段階に応じて作成した長野県版運動プログラムの普及を進めるとともに、教員の指導力の向上やスポーツが苦手な子どもへの多様なスポーツの提供、機会を展開していくこととしております。5年後の具体的な達成目標は記載のとおりでございます。

次に、基本目標の2でございます。ライフステージに応じたスポーツ活動の推進でございます。週1回以上スポーツに親しむ人の割合を示すスポーツ実施率が50%を下回っている現状や、障がいを持った方が積極的にスポーツや運動を行うことができる環境の整備等の課題が指摘されているところでございますが、5年後の目指す姿として県民誰もが年齢、体力、技術、適性、興味、目的に応じて安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた取組が進んでいますということで、ニュースポーツの普及など、身近なところでスポーツに親しめる環境整備等を展開していくこととしております。

5年後の具体的な達成目標は記載のとおりでございます。

次に、基本目標の3でございます。住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備でございます。種目や地域によっては指導者の確保が困難な状況や、誰もが安全快適に利用できるよう施設などの必要な整備や適切な維持管理が指摘されているところでございますが、5年後の目指す姿として総合型地域スポーツクラブ、郡市体育協会、スポーツ少年団、公民館、その他スポーツクラブがコミュニティの中心として充実した活動を展開していますということで、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成やスポーツ施設のバリアフリー化、学校体育施設の積極的な開放等を展開していくこととしております。5年後の具体的な達成目標は記載のとおりでございます。

次に基本目標の4でございます。競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進でございます。県全体の競技レベルの底上げや、選手に対するスポーツ医科学面からの支援が求められているところでございますが、5年後の目指す姿としてオリンピック・パラリンピックなど国際舞台や国内大会で活躍する本県選手が増加しています

ということで、国際舞台や全国規模の大会で活躍できる選手の育成・強化や、競技ごとの一貫指導体制の充実、競技者へのマルチサポートの推進を展開していくこととしております。5年後の具体的な達成目標は記載のとおりでございます。

次に、基本目標の5でございます。スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携協働の推進でございます。トップレベルの選手の技術や経験を地域のスポーツクラブ等にどう生かすか、また引退後のセカンドキャリアに向けた支援等が指摘されているところでございますが、5年後の目指す姿として、選手が県内を拠点に活躍するとともに、引退後も指導に携わるなどの好循環が創出されていますということで、トップレベルの選手が地域のスポーツ指導者として活躍できる場の創出や、学業とのバランスや将来のキャリア形成にも配慮したジュニアアスリートへの支援を展開していくこととしております。

次に基本目標の6でございます。多面にわたるスポーツの果たす役割の活用でございます。地域密着型のプロスポーツの活躍や、登山、トレッキング、サイクルスポーツの人気の高まる一方、県民の皆様の運動習慣の定着が十分でないことが指摘されているところでございますが、5年後の目指す姿として、スポーツが有する多面的な価値が県民の間で共有され、健康づくりや県内外の交流促進など、スポーツが元気な信州づくりを牽引していますということで、スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づく連携事業の推進や、豊かな自然環境を生かしたスポーツ合宿の誘致、高齢者が無理なく身体活動に取り組めるスポーツ機会の拡充を展開していくこととしております。

第4章、施策推進体制の整備でございます。

まずは、施策推進体制と役割でございますが、県や市町村、関係スポーツ団体、県民などがそれぞれの役割を認識し、お互いを尊重しながら協働して各施策を進めていくこととしています。また、計画の検証・評価でございますが、長野県スポーツ推進審議会の概要でもご説明いたしました。本審議会におきまして、点検・評価を行い、必要に応じて施策や事業、達成目標の見直し、改善を図っていくとともに、長野県総合5カ年計画における政策評価の仕組みを参考に、県議の皆様や関係スポーツ団体などの視点に立った計画の推進となるよう評価結果を公表するなど、進捗管理の共有化を図っていくこととしております。

駆け足で申し訳ございませんが、長野県スポーツ推進審議会及び長野県スポーツ推進計画の概要についての説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(藤沢会長)

ありがとうございました。お手元のブルーの冊子があるわけですが、この中身について、かいつまんで事務局のほうからお話いただきました。

何か今の事務局のご説明について、ご質問あるでしょうか。

よろしいですかね。

それでは、次に、具体的に今説明あったのですが、ウとして平成26年度主要事業について、資料3の1番になりますので、これについて事務局のほうからご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

### (茅野課長)

それでは、スポーツ課関係の平成 26 年度の主要事業等についてご説明いたします。資料 3-1 以下をお願いいたします。最初に資料 3-1、平成 26 年度長野県教育委員会基本方針についてという資料を入れさせていただいてございます。この長野県教育委員会基本方針は、第 2 次長野県教育振興基本計画に基づきまして、各年度において長野県教育委員会が取り組む主要な施策を明らかにするものでございます。第 2 次長野県教育振興基本計画については、中段以下の四角で囲ってある中にその内容をお示ししてございます。

恐縮ですが、2 ページをお願いいたします。平成 26 年度の重点施策でございます。三つの柱と基盤となる体制整備ということで、三つの柱の一つに体力向上とスポーツの振興ということで、スポーツ課関係の施策が教育委員会の重点施策の一つに位置づけられているところでございます。

5 ページをお願いいたします。3 の体力向上とスポーツの振興でございます。点線で囲まれた部分が喫緊の課題等でございます。これは先ほどご説明いたしました長野県スポーツ推進計画の中で指摘されておる課題等でございますが、これらの課題に対応した平成 26 年度の主な施策をその下に記載させていただいております。また、施策の展開として(1)の健康づくり・体力の向上については、12 ページの中段以下に記載しております。また、(2)のスポーツの振興については、18 ページの中段以下にお示ししてございます。具体的な事業につきましては、後ほどご説明いたしますが、これらの施策等を体系化したものが資料の 3-2 でございます。それでは、資料の 3-2 をお願いしたいと思います。A 3 の資料でございます。

平成 26 年度スポーツ課施策体系図でございます。スポーツ推進計画の六つの基本目標ごとにそれぞれ必要な事業を実施することとしております。左から三つ目の基本目標、これは計画の六つの基本目標でございます。その右に事業名をお示ししてございます。一番下に観光部が所管しております長野県観光振興基本計画に基づきまして、スポーツ課でも実施しております山岳遭難防止対策推進事業というのが書いてございますが、平成 26 年度に観光部の組織再編によりまして、新たに設置される山岳高原観光課に、この山岳遭難防止対策推進事業は移管されることとなっております。しかしながら、平成 26 年度の予算措置につきましては、スポーツ課から要求させていただいておりますので、資料の中ではこのようにお示ししてございます。

それぞれの事業に係る予算措置の状況は、その右のほうにいただくと書いてあるとおりでございます。また、一番左には平成 26 年度のスポーツ課の予算の合計をお示ししてありますが、合計で 21 億 9,594 万円でございます。前年度比較で 3 億 6,975 万 8,000 円の増となっているところでございます。これらに係ります主要な事業につきましては、後ほどそれぞれの担当の係長から説明させますので、よろしくをお願いいたします。

### (加瀬学校体育係長)

それでは、体力向上事業につきまして、ご説明をいたします。

まず、先ほどから話がありますように、本県の小中学生の子どもたちの体力・運動

能力は、昭和 60 年ぐらいから徐々に低下傾向が続いておりました。ここ数年は下げどまりと申しましょうか、若干とまってここ 2、3 年のところは徐々に向上傾向が見られているところでございます。しかし、全国平均と比較をしますと、男子の小中学生についてはほぼ全国平均並みでございますが、女子の小中学生については低い水準でございます。特に先ほど話があったとおり、中学生の女子は全国平均を大きく下回っている状況でございます。また、運動する子としない子の二極化、さらに女子の中学生においては運動部活動への加入率も全国平均に比較をするとかなり低い状況でございますので、運動離れの傾向が見られるというところでございます。

そのため、体力・運動能力の向上と運動好きな子どもたちを増やしていくために、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ基礎づくりを支援しながら、体力向上事業を推進しているところでございます。

資料は 3-3 になります。事業の内容でございますけれども、まず教育委員会としてはやはり学校体育の授業、これを本当に子どもたちが楽しくそして伸び伸びと参加できるような、そして運動習慣が身につくような授業にしていかなければならないということで、授業改善も進めてまいりたいというふうに思っています。さらに授業以外でも各学校では 1 校 1 運動等で運動習慣をつけてもらう取組を実施してまいります。

そんな中で長野県版運動プログラムというものを作成しています。現在のところ、小学生の低学年、高学年、そして小学校の全校運動、それから中学生が準備運動等に使えるプログラムまで作成をしております。幼児期の運動遊びのプログラムをさらに開発をし、幼稚園や保育園に普及をしていくという事業を次年度進めてまいりたいというふうに思っています。

それから、中学生期における適切なスポーツ活動の推進につきましては、また後ほどお話をいたしますけれども、中学生女子が本当に運動離れというような状況がございますので、今後、この指針に基づきましていろいろな取組をしてまいりたいというところでございます。

現在既に実施をしております各学校での体力テストを細かく分析をして、各学校にフィードバック、また個人にフィードバックする事業、それから、ながのスポーツスタジアムと申しまして、インターネット上でいろいろな種目の記録を競い合う事業等をさらに進めてまいります。

以上でございます。

#### (小林体育スポーツ振興係長)

続いて、競技力向上事業についてです。資料の 3-4 をご覧いただきたいと思えます。

本県の競技力向上につきましては、基本的に国体の順位、これを指標としてこれまで考えてまいりました。そこにありますように、事業内容として選手強化事業と発掘事業、この二つに大きくわけることができます。

アの国体種目強化、これにつきましては国体種目 41 競技団体、これに対する強化の支援であります。

次年度、新規でオリンピック育成支援、東京オリンピック開催決定に伴って、本県でもオリンピックの輩出をしようということで、特に可能性のある競技団体、選手、これに対して検討して支援していくという新規事業を立ち上げてあります。

それからマルチサポート、ジュニア競技力向上については、それぞれの選手が子どものころから、あるいは選手としてやっていくときのコンディショニングづくり、こういったところをサポートするものです。

次のページをお開きいただければと思います。

大きくこの二つについて簡単にご説明を申し上げます。新規のオリンピック育成支援につきましては、基本的に県内で有望選手、これをできるだけ育てていく、と。そして、最終的には中央競技団体であったり、JOC、国がその選手に対して支援をする、そこまで育て上げていきたいなということで、こういった新規事業を立ち上げて次年度以降やっていく予定であります。

それから、右側の長野県冬季アスリート発掘・育成事業ですが、SWANプロジェクトといいます。これにつきましては、小学校4年生から中学校3年生までを中心とした子どもたちが、冬季のオリンピックメダリストを目指すということで、21年度からこの事業をスタートしております。応募してきた子どもたちの中から1次選考、2次選考を突破した子どもたちにいろいろなプログラムを提供してオリンピックを目指していくというような、夢を与える事業として展開をしております。現在のところ、89名の小中学生、若干高校生以上もおりますが、を中心にしてプログラムを受けているところです。これらを行うことで、国体、そして国際競技大会等での選手の活躍、これを支援してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

#### (内山企画幹)

それでは、続けて私のほうから体育施設に関連して三つお話させていただきます。

まず資料3-5であります。一つ目です。

武道振興施設のあり方検討ということで、現在全国47都道府県のうち、県立武道館がないのが長野県を含めて5つの県のみということになっておりまして、以前からその設置について武道の関係者から要望を受けてきたところでございます。昨年策定いたしました、しあわせ信州創造プランの中でも、初めて武道を振興するための施設のあり方を検討していこう、と、また、県のスポーツ推進計画にもそのようなことが書かれており、そういった位置づけをいたしまして、来年度からそのあり方の検討を行うための検討会議の設置経費等について予算を計上したところでございます。

次に、裏面でございます。資料3-6をお願いいたします。

現在、スポーツ課が管理しております野球場というのは、長野、伊那、上田の3球場がございます。このうち特に老朽化が著しい伊那の野球場につきまして、これは昭和42年に建築をし、既に45年が経過しているということでございますけれども、この球場に関しまして3の改修計画にありますとおり防球ネットの設置、安全管理を行うとともに、スコアボードの改修を行いまして、機能の向上を図ろうということを目的とするものでございます。

次に3-7でございます。プロスポーツ振興環境整備支援事業でございます。

ご存知のとおり、現在県内には4つのプロスポーツチームがございます。サッカーで2チーム、野球、それからバスケットということでございますが、それぞれのプロスポーツチームの活躍は県域を越えた交流の拡大や地域の一体感の醸成など、大きな役割を担っていただいております。また県と包括連携協定を結び、お互いに相互協力事業などを実施して、スポーツを通じた元気な信州づくりということを進めているところでございます。さまざまな効果というのが一つの市町村にとどまらず広域的に及ぶということも鑑み、このたび県が南長野運動公園総合球技場を改修しているACパルセイロへの支援という形といたしまして、5億円の予算を計上したものでございます。なお、以前から、松本山雅に対しましては、ホームスタジアムが県有施設であるため、財産管理者として整備をしてまいりましたが、それ以外にACパルセイロへの支援を今回お願いして、このたび予算に計上したところでございます。

スポーツ課関連としては以上です。

#### **(藤沢会長)**

それでは、続いて、障害者支援課事業説明を、お願いいたします。

#### **(高池障害者支援課課長補佐兼社会生活係長)**

それでは、障害者支援課から障がい者スポーツ振興に係る取組ということでご説明をさせていただきます。資料3-8をご覧ください。

障害があってもスポーツの楽しさを体験し、社会参加、自己実現につなげることを目的といたしまして、2の(1)にございますような各種スポーツ大会の開催をしているところでございます。

第1段階から第4段階というように分けてございますけれども、それぞれ県内10圏域ですとか5圏域ごとに分けた地区ごとのスポーツ大会、それから県的な大会として秋の障害者スポーツ大会、それから冬のスキー大会、それから全国の障害者スポーツ大会への派遣、これは昨年度は東京におきまして東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した直後に参加をしているところでございます。

また⑦の車いすマラソン大会につきましては、来年度第10回目という節目を迎えます。昨年は季節外れの雪で大会が中止になってしまったわけですが、今、4月20日の大会に向けて準備を進めているところでございます。

それ以外に、2の(2)にございますような障がい者スポーツの普及のための人材づくりということで、指導員の養成ですとか、パラリンピックにおきましてもオリンピックと同様選手育成の取組を進めてまいり予定で。

それから、ここにはございませんけれども、県の施設として長野市下駒沢に長野県障がい者福祉センター、通称サンアップルを障がい者スポーツの拠点施設として設けておりまして、それぞれ東信、南信、中信にもサテライト拠点を置きながら、各種スポーツ教室等の事業を展開しているところでございます。

以上でございます。



(藤沢会長)

説明ありがとうございました。

今、事務局のほうから説明のございましたことにつきまして、特に 26 年度の事業の展開について力を入れているところについてございました。

資料 3-2 に戻っていただきますと、県もなかなか大変なところを工夫されて、結果を出そうとしている努力があり、新しい事業が展開するという形で予算づけが行われています。26 年度の施策についてご意見、ご質問ありましたらお願いしたいと思います。

いわゆるスポーツと障がい者スポーツの所掌するところが行政のほうではまちまちになっているのだけれど、連携しながら何か共通できるものは使えるような、例えば体力づくりをするような場合に、一つの施設で両者が使用できる場所を設定するとか、その辺の工夫をしていただければありがたいなというふうに思います。

ほかにどうでしょうかね。

(萩原委員)

委員長よろしいでしょうか。お願いいたします。

本来は意見交換のほうで申し上げるべきことかもしれませんが、ちょっとここで発言させていただきたいと思います。

競技力向上の件です。障がい者スポーツ、この関連なのですがけれども、新規事業ということで我々競技スポーツに携わる者としては大変ありがたいことだと思っております。

この中でオリンピック、東京オリンピック選手育成、あるいは SWAN の選手から輩出する、もちろんパラリンピアンも含めてということなのですが、結論から申し上げますと、例えば冬季スポーツ、今回ソチのオリンピックもパラも非常に県出身関連選手が活躍したと思っておりますが、そういった選手が所属している企業というのは非常に一部の企業が、一部というのも手前みそですが私は北野建設で選手を見ておりますが、私としてはもっと複数の企業が、長野県内のスポーツ選手の面倒を見ていただけるような状況があれば、もっと長野県の選手が県内にとどまってオリンピック・パラリンピックを目指せる状況、環境がつくられるのではないかと。場合によって、やっぱり高校、大学まで長野県、高校まで長野県にいたけども、例えば大学は四国のほうに行ってしまう、場合によってはそっちのほうで就職するとか、スキー選手によっては北海道に行っちゃうとか、結局長野県出身の選手が流出している状況があると思います。そういうことをやっぱり食い止めるために、こういった事業の関連の中で、その選手と企業のマッチングのような事業もぜひ取り入れていただければなど、これはもう既に決まったことですからまた今後可能性があれば取り組んでいただきたいと思っております。

私は日本オリンピック委員会のアスリートナビゲーションのほうの役割も少しお手伝いさせていただいているのですがけれども、これまで 23 社 29 人が就職、うまくマッチングして選手がその企業に勤めている状況が、雇用形態は別にしてもそういう状況がありますので、長野県の各経済団体の方々と協力をして、ぜひとも長野県の選手が

他県に流出しないような、あるいは長野県の出身選手がそのまま県内にとどまって競技を続けられるような、オリンピックあるいはパラリンピックを目指せるような環境をつくっていただきたい、そういったマッチング事業を進めていただければありがたいなと思っております。よろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

(藤沢会長)

ありがとうございました。

(茅野課長)

はい。今、荻原委員さんからご指摘のこと、もっともだと思います。それで、先ほど説明をいたしました長野県スポーツ推進計画の中でも、基本目標の5の中で委員ご指摘の点等を挙げさせていただいております。平成26年度の中では具体的なこの関連の事業は盛り込んでおりませんが、この29年度までの5か年計画の中でそういうふうなことをしっかり確立できればいいかなと思っておりますので、またいろんな大所からご意見いただきながら、反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

(荻原委員)

ぜひやってください。お願いします。

(藤沢会長)

ほかに、どうぞ。甘利委員さん。

(甘利委員)

私も後ほどの意見交換のところで申し上げようかと思っていたのですが、同じく競技力向上の選手強化事業や、新規のオリンピック育成事業の支援対象は各競技団体が窓口になっております。それは当然のことではありますが、もう少し県内の新しい動きや状況も察知していただければうれしいと思っております。県内のスポーツ関係のNPO法人は約20団体あります。これは、法人格をとってそれぞれのスポーツの選手育成なり地域スポーツ振興に携わって活動している団体です。

それに比べてと言っては語弊があるかもしれませんが、従来の各競技団体で法人格を有している団体は、長野県クレール射撃協会でした。あとは長野市のラグビーフットボール協会、ほかの競技団体というのは、やはりそういうイノベーションといえますか、法人格をとってまでというところまでまだ至っていない状況です。

総合型地域スポーツクラブもいろいろ課題はあるにしても、県内に約50ある総合型クラブのうちの15、6クラブですかね、3割ぐらいは法人格を取得して社会的に活動していこうという方向で進んでおります。

そんな状況で、例えば、身近なところにノースアルプスバドミントンアカデミーという団体が池田町にありまして、ここが2011年のバドミントンの全日本女子のシン

グルスチャンピオン、奥原希望を育てたNPOです。まず法人をつくり、韓国から指導者を呼び、選手を育成し、史上最年少の全日本チャンピオンをつくった。リオの有力な選手候補になったと思います。彼女は先ほど荻原委員からもお話あったように高校は大宮東に行ってしまいました。そういうようなことをやっているNPOがある。

また、松本市のNPO総合体操クラブWingという団体では、新体操で全国に通用する小中学生を育ててきております。NPOなら何でもいいというわけではないのですけれども、きちんとした理念、ミッションを持って社会的に自立した形で経営をしていながら選手を育てているようなところにも目を向けていただいて、そういう団体が直接この事業の対象の候補になって、ヒアリングの席に呼んでいただけるような、そういう方向性は可能性としてないのだろうかということをおっしゃって希望も含めまして申し上げたいと思います。

**(藤沢会長)**

ありがとうございます。何かありますか。

**(茅野課長)**

先ほど、説明した資料の3-4のところに対象団体、ここではオリンピック、世界舞台で活躍が期待できる選手を有する競技団体ということで書かせていただいております。今、甘利委員さんから指摘されたことはもっともだと思います。この流れと、今ご指摘の点ですね、今はこの事業の方向性としては競技団体でお願いする予定ですが、検討させていただければと思います。

**(甘利委員)**

ぜひ長野県内全体のこの新しい動きというものを見渡していただけるとうれしいです。よろしく願いいたします。

**(藤沢会長)**

ほかにどうでしょうか。

荻原委員さん、それから甘利委員さんのご意見ですね、この推進計画を作成する段階でもかなり議論いただいて、優秀選手が流出することに対して、どういうふうを考えていったらいいのかということも話題にはなっていて議論はしましたけれども、なかなか名案が浮かばないのが現実だということで、引き続き非常に重要な検討課題で、また新しいメンバーで協議いただいたり、あるいは事務局のほうで努力いただいて、そういうことができなければいいなというふうに思います。

それでは、あと残った報告ですね、エの最近の県内スポーツを取り巻く状況等について、4から8まで資料があります。これについて簡単に説明していただいてから意見交換の中で自由なご意見をお願いしたいと思います。

では、ご説明をお願いします。

**(加瀬学校体育係長)**

お願いいたします。

平成 25 年度、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果についてご説明を申し上げます。資料 4 をご覧ください。

この調査は、国が全国的な子どもの体力の状況を把握分析するために、平成 20 年度から実施している調査です。実施対象は小学校は 5 年生、中学校は 2 年生で、ここ数年は調査校が抽出されて実施していましたが、今回は全ての学校が対象となって調査が実施されました。本県の結果については 3 ページ、調査結果 1、平成 25 年度の調査結果をご覧ください。

体力合計点を全国平均と比較すると、小学校、中学校ともに男子は全国平均を上回ったところがございます。資料には記載してありませんが、小学校男子は全国 19 位、中学校男子は全国 24 位でございます。

また、小学校女子、中学校女子は全国平均を下回り、順位におきましても小学校女子は 30 位、中学校の女子は 39 位となり、特に中学校女子の体力につきましては、全国との差が大きい状況でございます。

次に、資料 7 ページをご覧ください。

種目別の結果と改善の方向について記載してあります。小学校においては、男女ともに上体起こし、50 メートル走が全国平均を下回っており、いわゆる筋パワー、あるいは疾走能力が劣っている状況です。中学校では男女とも上体起こし、反復横跳び、シャトルランが全国平均を下回り、特に女子においては筋パワー・筋持久力、敏捷性、全身持久力が劣っている状況が明らかになっています。これらの課題については、指導・改善の方向を示し、学校現場等でも取組を推進してまいりたいと考えています。

続いて 14 ページですが、児童・生徒の生活習慣や運動習慣についての質問式での調査結果をまとめたものであります。本県の児童生徒の生活習慣はおおむね良好な状態であるといえます。特徴的な点については、15、16 ページにありますように、1 週間の総運動時間が 60 分未満の子どもが、小中学校ともやはり女子で全国平均からかなり上回っていると、さらに全く運動しない 0 分の中学生女子が多いことがわかります。

次に、19 ページをご覧ください。運動嫌いの児童生徒についてです。小学校入学前に運動が嫌い、やや嫌いという児童が 10% を超えている状況があります。さらに学年が進むにつれて運動嫌いになる女子の児童生徒が増加している点が挙げられます。

最後に 21 ページをご覧ください。運動部活動だけではなくて地域のスポーツクラブもそうですが、これがスポーツをするクラブの所属率を見ると中学校女子ではやはり全国と比べて非常に低い状況が続いていることがわかります。

26 ページからは体力向上に向けて取り組む良い事例について記載をしてございます。こういった取組を参考にしながら各学校に広めていき、体力の向上を図ってまいりたいと考えておるところです。

続きまして、中学生期のスポーツ活動指針についてご説明いたします。資料 5 をご覧ください。

ここにリンドウ色の長野県中学生期のスポーツ活動指針と、厚い冊子の資料編と資料と三つセットにして配っておりますが、本日は時間の関係がございましたので、資料

5に沿って説明させていただきます。

本県の中学生期のスポーツ活動の状況として、幾つかの課題が指摘されているところですが、やはり運動部への加入率の低下、1では加入率が年々低下している状況、全国と比べても低い状況、それと進級あるいは進学につれて生徒がスポーツ活動からどんどん離れていく状況。中学校1年から中学校2年にかけてかなり離れていく状況。高校入学するとともに女子はかなり運動部離れが進んでいく状況。そしてその大きな理由として苦手、嫌い、あるいは高校生では中学校の活動でもう満足してしまったというような回答がある状況が挙げられます。

2ページ目をご覧ください。先ほど申しました体力における課題、それと中学高校ではないのですけれども、国体における冬季競技は全国のトップクラスにもかかわらず夏季競技における下位に低迷している状況。それと成人の運動スポーツ実施率の状況等について、課題が指摘されております。

さらに3番目ですが、運動部活動の延長として行われている社会体育活動として、一部過熱化し生徒、家庭への負担の増加。あるいは責任の所在が曖昧であり、非常に危険な状態で行っている活動もあるというような状況。これらの本県の課題に対して3ページをご覧ください。県民の健康維持に大きな影響を与えかねない、本県のスポーツ振興において影響を与えかねないということで、平成24年10月から中学生期のスポーツ活動検討委員会を設置し、中学生期にふさわしいスポーツ活動のあり方について医科学的な知見から検討を重ねてまいりました。報告書を提出し、丁寧な議論と県民への意見、学校関係者への意見聴取を行い、去る2月13日にスポーツ活動指針を決定し、発表をいたしました。

4ページ目をご覧ください。県教育委員会が目指している中学生期のスポーツ活動の方向として、一つは先ほども述べましたように、心身の成長過程にある中学生期のスポーツ活動が適切で効果的に、さらにスチューデント・ファーストの精神に基づいて生徒の主体性を尊重した活動となるようにということで、運動好きの生徒の増加、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣、それとメリハリのある練習計画によるバランスのとれた中学校生活ということで指針をこのたび作成し、今後はその普及徹底に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

#### (小林体育スポーツ振興係長)

続いて、第68回及び第69回の国民体育大会の結果です。資料の6をご覧くださいと思います。

68回国体につきましては、既に終了をしております。夏の東京都で行われた大会を最後に終了をして、その上にありますように成績は、男女総合が17位、女子総合が16位、中盤にあります。6年連続で天皇杯10位台を維持しているということで、このところの成績は冬季に頼っている部分はまだ変わらないのですけれども、非常に安定してきているというような結果であります。この国体の点数につきましては、入賞者8位までの入賞者が得点になるというようなシステムになっております。次のページをお開きいただきますと、季別の内訳ということで各競技がどれだけの点数をとっ

ているかというのがご覧いただけるかと思えます。特に冬の種目については満遍なく得点を取っていて、そのほか夏、本大会につきましては陸上、あるいは弓道、山岳、クレー射撃、こういったところが 68 回国体については多く得点をとっているところ です。もう 1 ページめくっていただいて、4 ページをご覧いただきたいと思えます。本大会の入賞者ですが、ここにある入賞者が一番右側の総合の得点をとっていて、この合計が、これは本大会のみですけれども、この合計が先ほどのところに反映をしているわけでありませう。

それから、69 回国体につきましては、冬季大会が終了をしております。先の冬に行われました山形と日光、アイスホッケー、スケート、スキー、これらが終わりました、現在のところ北海道に次いで 2 位という結果であります。これはもう数年来北海道に次いで 2 位ということが続いているところでありませう。次のページ以降に入賞者等が記載されておりますのでご覧いただければというふうに思えます。

続いてソチオリンピック・パラリンピックの県内関係選手の成績であります。資料の 7 をご覧いただきたいと思えます。ここにありますように、合計で 25 名県関係選手がソチオリンピックに出場をいたしました。先ほど荻原委員さんからもありましたとおり、北野建設の竹内択選手、それから渡部暁斗選手、この 2 人の銅メダル、銀メダルこれを含めて計 12 の入賞というような結果になっております。

それから裏側、2 ページですけれども、ソチパラリンピックにつきましては、本県の関係選手が 7 名、そして狩野選手の金メダル二つを含めて 7 の入賞という結果になっております。

以上です。

#### (内山企画幹)

では続きまして、資料 8 をお願いいたします。最近の新たな動きということで若干ご報告をさせていただきたいと思えます。

二つの大きな国際大会の開催が控えておりまして、それに向けての動きでございますが、一つが東京オリンピック・パラリンピックの関係でございます。両大会の概要は下のほうに点線が入っておりますが、2020 年の大会の開催に向け長野県としましては大会の効果を本県に呼び込むための対策を検討するための庁内連絡会議というのを昨年 11 月に設置いたしました、それぞれ検討を進めつつあるところでございます。

このうち、協議内容の中心にスポーツ振興とございますけれども、スポーツ振興に関することに関しましては、スポーツ課がその窓口となって取組を進めているところでございます。東京オリンピック・パラリンピックに向けては、全国各地で事前合宿の誘致というのが大きく活発化してきておりますけれども、県内におきましても (2) のアに記載のとおり、過日意向調査を各市町村で行いましたところ、23 の市町村で事前合宿の誘致を希望するというようなご返事をいただきました。それを受けまして、去る 3 月 14 日ですけれども、未定という市町村も含め 35 の市町村と関係課によりまして意見交換と申しますか連絡会議を開催いたしました。今後も各市町村と連携しながら進めてまいりたいと思っております。

また、(3) にあります高地トレーニング構想でございますけれども、東信地方の市

町村によります高地トレーニング構想というのが打ち出されております。一つが湯の丸高原におけます国設の競泳用のプールを誘致するという計画、それから二つ目としましては、浅間山麓高地トレーニング構想といたしまして、浅間 2000 パークを中心に 400 メートルトラック等を整備するという計画がございます。

次に裏面の 2 ページ目をお願いいたします。

もう一つの大きな大会といたしまして、アジアで初めて開催されますラグビーのワールドカップが 2019 年に開催いたします。これのキャンプ地の誘致ということで菅平高原においてこの計画をつくり、それに向けた動きを始めているところでございます。引き続き県といたしましても、関係市町村と連携しながら取り組んでまいりたいと思っております。

説明は以上です。

#### (藤沢会長)

ありがとうございました。

最近の県内スポーツを取り巻く状況等について関係の係から具体的なお話を伺ったわけですが、一応、今のスポーツを取り巻く環境について何かご質問あれば。

今報告をいただいたのですが、それを含めて冒頭申し上げましたように 30 分ほど時間をとりまして、今までの報告を含めて感じたことですか、あるいは日ごろ思っていること、あるいはこんなことがあるといいなというようなことを、それぞれの委員さんからもご発言いただいて、そんなことについて事務局としてどんなことを考えてきたかということも含めた話ができればいいかなと思っておりますので、そういう方向で進めていただければよろしいでしょうか。

積極的に手を挙げていただければと思います。せっかくですので、青木さんから、では。

#### (青木委員)

今、オリンピック・パラリンピックという話が出ましたので、ちょっと私の考えとか思っていることとお話ししたいと思っておりますけれども、日本人って結構シャイな国民性があるって、さらに長野県民は特に消極的だというような県民性があるということ最近よく言われているのですけれども、長野県の冬季スポーツで活躍している選手の知名度は県民の中でどれくらいあるかといったら、かなり低いほうじゃないかなと私はちょっと思うんですね。特に冬季スポーツというのはなぜかというと、山で行われたり、地域が限られてしまうということで、長野市に住んでいる特にスポーツに興味のない人たちがどれくらい長野県で活躍している選手を知っているかということところが大きな問題なんじゃないかなと、課題なんじゃないかなということを何か昔から思っていました。

中学生女子ですとかその子たちのスポーツ離れ、そういうところにもちょっと影響しているのではないかと思うところもあるのですが、特に中学生ぐらいの女子の興味というのは、やはりアイドルですとかその有名どころですとか、テレビに多く出るとか、名前を聞くとか、そういう有名人という餌じゃないですけど、そういうものが示

されますと結構興味を示す年代なんじゃないかなということだと思います。

だから、具体的に何ができるかということまではまだ考えてはいないのですが、例えばこのオリンピックを機に報告会みたいなものが県でも行われたりされていますが、それがなかなか一般に浸透してなくて、県民がこぞってそういう報告会に、例えば文化会館ですとかああいう大きなところでオリンピック選手、パラリンピック選手を合わせて、今度入賞された方ですとか、そういう方たちが一堂に集まった中で、いろんな体験談とかそういうのが聞かれるとかですね、そういう報告会ってというのは今までなかったように、私は記憶しているのですがけれども、そういうものが耳に入ってこないぐらいの規模でしか行われていないということがすごくもったいないなという気がするんですね。選手もせっかく活躍して地元に戻ってきて、確かにそのときは騒がれるのですがけれども、それ以降、1カ月もしたらもう全くそういうものが消えてしまうというのが状況というのも、自分でも選手を続けていて思ったところでもありますし、何かそういう意味でもっともっと県の有名人というところでの何かアピールとかそういうものができてこそ、スキー大国とか冬季スポーツ大国と言われている長野県の意義があるところでもあり、やはり長野パラリンピック・オリンピックというものが開催された地というものの誇りといいますか、そういうものを県民の中にも浸透させていけるのではないかなと思います。そういうものが、ひいては一番そういうところに有名人に興味を持つ年代の中学生女子ですとかそういうところにも波が行くのではないかなと、何となく思いました。

それからもう一つはそれと関連づけてということなのですが、先ほど藤沢会長さんがおっしゃったのですがけれども、障がい者とその健常者にかかわるところを司るところというのは、全く別の組織で行われているというのが現状なのですが、特にスポーツにおいては、今後その組織化の一本化ですとか、スポーツ庁というものの設立とかそういうところが今盛んに騒がれていまして、特に東京オリンピックに目がけても目の前に迫っている、迫って行われている、行われようとしているところであるこのタイミングに、やはり障がい者は障がい者のスポーツの中で、健常者は健常者のスポーツの中でというのではなくて、例えばその障がい者のスポーツ大会の中でも健常者の何か県内で国体に出たり活躍された選手ですとか、それからオリンピックで活躍された選手ですとか、そういう方をコーチとか指導員みたいな形で呼んでいただいて、その方たちにも障がい者スポーツの指導方法みたいなのを事前に学んでいただくというような、そういう本当の意味での本当に現場での歩み寄りというのも、もう少し推進していただけたらなということを感じています。

以上です。

(藤沢会長)

ありがとうございました。

ほかにどうでしょうか。せっかくの機会ですから、ご発言いただきたいと思いますが。

(矢島会長職務代理者)



それでは、せっかくの機会ですので、お話ししたいと思います。

まず1点目ですが、先ほど中学生期のスポーツ活動についてお話がありました。課題として記載がありましたように、中学校での運動活動離れということで、これは高等学校でもやはりその延長ということで顕著な状況であります。特に女子生徒の運動部活動の加入率が非常に低いということ、これは全体の高体連の活動にも影響するわけなのですが、ご案内のとおり高校では前期選抜ですとか中学校での活動の特色を生かしながら高校を選択して入ってくるという状況にあります。また、それぞれ高校の中でも中学校のときにこういう活動で活躍していた選手だなど、情報がいろいろ入ってくる中で、高校はそういう期待があるのですけれども、なかなか続けていただけない状況もあります。

高体連では中体連、スポーツ課学校体育系のほうでもこれ検討されておりますので、この部分についてやはり女子の部員、全体高校生の意識調査が必要と考えます。高体連の組織の中で調査研究委員会というのがあります。これがたまたまですが全国高体連の中で調査研究発表がありまして、その数年先にこの発表の機会が長野県に順番として回ってきますので、こんなところに視点を当てながらの調査を考えておりまして、その中でスポーツ課さんのほうに相談させていただきながら、この調査研究についてアドバイスいただければなとこんなふうに思っております。それが1点目です。

2点目です。年度末にスポーツ課でご尽力いただいたと思います、中学生のスポーツ活動指針についてですが、いわゆる現場での指導者、特に中学校では学校の顧問の先生と社会体育の指導者、これがイコールの場合もあるでしょうし、保護者の場合もあるかと思えます。高校の現場ではこの社会体育の関係で高校へ上がってくると、中学校は市町村ですのでそれぞれの市町村の社会体育の指導者、例えばある競技の担当の指導者がおるのですけど、高校の場合は非常に広範から集まってきますので、その社会体育の指導者同士で教育方針、指導方針が異なる場合があって、それぞれ違った形の指導方針の子どもたちが入ってきます。それに加えて非常に保護者に関わりが強いものですから、学校の指導方針をめぐってそこでトラブルが生じる可能性があります。

今、体罰の問題も含めて国のほうも、トップアスリートの養成の場でもそうなのですが、指導者のあり方が問題になっています。ですから、これは要望ですけれども、いわゆる競技団体を通じてこの中学校の指導方針、指針というものを示していただいて、県を統括する各競技団体で終わらないで、市町村においても必ずこの傘下の競技団体のシステムがあるはずですので、ここにもしっかりお示しいただいて、指導者、中学生の体の状況、心のあり方、発達の状況というのはこういうものなのですよということをしっかり示していただくような機会をつくっていただく、こんな働きかけを県の教育委員会のほうでしていただければいいのかなと思っております。これが2点目です。

3点目です。先ほどオリンピックの誘致ということでいろいろ事前キャンプ地のオファーが、長野県は非常に地の利がいいところですので、あると思います。スポーツへの関わり方というのは、当然するスポーツが中心ですけれども、見るスポーツもあります。もう一つは支えるスポーツということで、せっかく一流のアスリートが来るわ

けですので、長野県の小学生含めて中高生、支える側のボランティアとして積極的に関われる活動の機会を働きかけていただければと思います。

最後に4点目ですが、東京オリンピックということで各競技のトップアスリートを育てるということに注目しているのですけれども、やはり強化と普及というのは相存在するわけで、裾野が広がらないとピラミッドというのは高くなならないわけであります。高体連あるいは競技団体でもそうですけど、やまびこ国体以来非常に衰退している競技が県の中にあるかと思えます。高体連としても大会が北信越の中でブロック開催が回ってきたときに競技団体自体が、ちょっとこの表現が適切かどうかはわかりませんが、衰退している状況にあります。こういった状況についても県として調整し、少しサポートしていただくような、確かにトップアスリートを育てるのも大切なのですけれども、やはり衰退している競技についても配慮いただいて、育てていただきたいなど、こんなふうに思います。

以上4点ですが、意見言わせていただきました。よろしく申し上げます。

#### （藤沢会長）

ありがとうございました。

関委員さんどうぞ。

#### （関委員）

今、裾野ということをおっしゃられたのですが、確かにトップの方を見出すために裾野が広がらないと、そこはいきなりはいかないということとはとても感じます。

それで、体力が云々というときに私は、とても教育委員会としていけないと思うのですけれどもあえて言わせていただければ、保育園の送り迎えから始まって中学生もそうなのですが、親が車で送迎をしてしまうんですね。小さいうちなんか特に、日中、親と一緒に歩きながら花を見たりとかそういうようなところから歩けばいいと思います。小学校、中学校も学校が終わって、部活が終わったりすると、近くの公衆電話から親に迎えを頼んで親が迎えに来て帰ってしまうのです。

危ないとか雨が降るとかいろいろあると思いますけれども、そこで甘やかすことが本当に子どものためになるかというところが、私としても疑問に思っています。親が甘やかして体力がなくなって、それで体力がないからって県で大金を使って子どもの体力を養っている、とても変な悪循環があるなということだと思います。

そして、その親ということに関してなんですけれども、諏訪市なんかは体育の授業でスケートに行きます。先日も明日小学校のクラスが授業で来ますということで、そこに貸スケートがずっと並べてあったのですが、40足ぐらいあるうちのうちのスピードスケートの靴が5、6足しかなかったのです。あとはアイスホッケーみたいな厚いので先が丸いスケート。長野県でスケートっていったらまずスピードスケートが私なんかは思い浮かぶのですが、何でこんなにスピードスケートが少ないのかなと思ったら、親が危険だからやめてほしいと言うようなのです。先が尖っていて危ないと、危険だからやめてほしいと、危険だったら子どもが自分でそれを避ける努力というか、そういったものを身につけなければいけないのではないかなと。そういうところも子

どもが危ないために親がまず先にそれをとめてしまう。そういうことは果たして子どものためになるのかなというところが、私は危惧しているところで、やっぱり気力体力、そこら辺を身につける、それがやっぱり親の愛情ではないかなというふうに思います。また、スポーツで仲間と一緒に戦うといったらいけないのですけれども、仲間内の友達関係、仲間関係、そういったものが今薄くなっているものですから、直接スポーツが云々ということでもないのかもしれませんが、スポーツを通じて心と体を鍛えてほしいなというところを日ごろ感じているところです。またよろしく願います。

**(藤沢会長)**

ありがとうございます。  
山岸委員さん、何か。

**(山岸委員)**

総合型スポーツクラブのことです。

県の5か年計画の中でも明示されることで、今こそスポーツの力で本当に地域が変わっていくという兆しがあります。その中で伊那の総合型スポーツクラブでは中学校部活動の受け入れを通じた青少年の育成であるとか、子育てサポート、体を動かすことが好きだという方や、老後自分の足で立って歩きたい等多くの人たちの応援をしていく中で、行政から、今までの減免廃止、施設整備計画の中での事務所の移転。という話がありました。結果的には私たちの目的を丁寧にお話していく機会となり、担当課とも何度も話し合う場もいただき何とか新たな形の支援の方向が見えました。

今後も現場はぶれずにやっていこうと思っていますが、どうしても行政の事業内容や関わりは年々変化していきます。もしこの場をお借りして県の皆さん・関係者のお力をお借りして、何かの機会に今まで以上に総合型はどうですか？と各市町村に状況等を聞いていただいて、できればWIN-WINの関係や折り合いのきっかけとして、お互いが同じ方向を見て力になっていく共存性から、目をそらさないようにしていただければありがたいなと思っています。

そして、それぞれのクラブからも、長野県の掲げるスポーツ振興という目標に向かって、協力できるシステムづくりや窓口ができたらいいなと思っています。

日々変化を受け入れていく体制も構築しているので、国・県・市の行政の中で総合型クラブも含めた5か年計画の推挙状況を確認し、指導手助けを今まで以上にお願いしたいです。目的につながる時間がもう少し欲しいなと思っています。色々な事を受け入れる時間は、立ち止まり考えて成長できる機会でもあるし、また、今までどんなに恵まれてきたかということも、いかに力を借りてきたかということも自覚することが出来る時間だと思っています。スポーツをやっている人たちだけでなく、スポーツクラブを運営している人たちも一緒に成長していく場になっていければと思っていますので、ぜひ県の皆様や関係者に助けていただける機会をいただきたいと思います。ことをスポーツクラブを代表して届けたいと思います。ありがとうございました。

(藤沢会長)

吉羽さん、何かございますか。

(吉羽委員)

先ほどのオリンピック・パラリンピックの話、やはり日本のトップレベルの選手が世界の舞台で活躍するというのは感動いたします。私は長野オリンピックからずっとそんな感動を持ち続けています。

ただ、今 20 代から 40 代のサラリーマンの方のスポーツ離れが問題となり、また 60 近くなってから慌てて運動しなければという流れの中で、ラジオ体操からでもいいのですが、誰もがスポーツを定期的に楽しむことによって健康になると思います。

たまたま昨日東京に行ったのですが、皇居の周りというのは、日曜日に全部車での交通をストップして、北の丸から靖国神社の通りをサイクリングとジョギングとウォーキングのため毎週通行止めをしているということに驚いたのですが、あれは東京都がオリンピックを見据えてやっているのか、ちょっとその辺がわかりませんが、今後、長野県のスポーツ振興のために、誰もが散歩ができてジョギングできてというか、そんな感じの幅広いスポーツ、健康に結びつけていくようなスポーツ振興ができればいいなと思っていますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

(藤沢会長)

ありがとうございます。

白井委員さん、どうですか。

(白井委員)

私は指導者という立場でありますし、また、母親を 24 年間やっておりますけれど、先ほど関委員さんからもありましたように、子どものこれだけ体力がないとか、中学生の女子が運動をしなくなったとかっていうことですが、私も娘も競技をやってきましたし、息子も武道をやってきました中で、すばらしい選手であったり、頑張っていると思う子どもたちを、遮ってしまうのが残念ながら親であると感じています。

私が子どものころ、娘たちが子どものころの小学校も確かに校門の前まで渋滞ができるぐらい送り迎えに来ていまして、そういう送り迎えに来ないおうちのほうが何かちょっと引け目を感じるようなおかしなところも出ていました。

娘が全国のテニスのキャラバン隊みたいなものに長野県代表で参加をいたしまして、全国から選手が集まる場所に行きました。2 日間にわたったものだったのですが、その合間に、親としての心構えというんですかね、そういうものを勉強する機会がございました。私が考えているのは、小学校・中学校・高校のときの保護者の集まりみたいなときに、できれば親のあり方のような、子どもを見守るための何かいいお話し合いができる、親が学習する場をちょっとつくっていただくと違うんじゃないかなと思うのです。しかし、例えば、中学、高校でアスリートですごくうまくいっている子ども、結局最後のところまで残らなかった理由として、本来なら子どもを支える親で

なければいけないのに、だんだん応援しなくなり、子どもがそれを感じ取ってしまって、競技ができなくなったり、やる気がなくなってしまって違う方向に向いたりしてしまう。

ぜひ、子どもだけにむちやを振ったり、お金を通して運動しようということよりも、今は情報がたくさん出る世の中ですので、そういういい親を教育するという場があってほしいというのが私の願いであります。

#### (藤沢会長)

ありがとうございます。

久保田委員さん、どうでしょうか。

#### (久保田委員)

いろいろな委員さんのお話をお聞きしてきました、なるほど、というふうに思っていたのですが、小中学生の運動離れというお話もいただきました。それから、また、親御さんの理解という、これも問題ではないかということでした。具体的に見てみますと、いわゆるすばらしい選手を育成していくためには、やはり小さいころからということがまず必要ではないか、というふうに身にしみて感じたこともありましたけれども、要は小学校・中学校という、一貫教育って言っているのですが、運動の部分もまさに一貫教育っていうのか、そういう視点の中で捉えていかなければ選手の育成というのは、難しいのではないかなという、そんなふうに思いました。

というのは、小学校のときに非常にすばらしい、親御さんもそうでしたし、指導者もおりました。スポーツクラブといいますか、それをやりまして、それが中学校にバトンタッチしていくわけですね。そうすると、今度は中学校の先生もすばらしい先生がいらっやいまして、そしてそういうことからどんどん力を発揮していきまして、小さい村でありながら全国大会で3位になるという、そこまで上り詰めるという中学校の女子バレー部がありました。ところが、小学校でどういうことかわかりませんが、そのクラブの中でいろいろな問題が発生してきまして、結局そのクラブの子どもたちは解散をせざるを得なくなったということですから、ぱたっと今度は減っちゃったわけですね。それで今中学校の先生も一生懸命何とかしようということをやっていますが、やはりそれはなかなか挽回できない。中学校の3年のうちで実を結ばせるということは非常に厳しい状況なんですね。

なので、できるだけ早いうちにそういうような段階的なスポーツの育成、選手を育成するのであれば、過程があると思うのですが、そういった中でこの育成というものが大事ではないかなというふうに感じたところです。

それからもう一つ、これも今のスポーツ基本法っていう、これを読んでみますと本当にすばらしいことが書いてあるんですね。いわゆる健康で明るい生涯スポーツの振興を図るとか、今後全ての人が幸福で豊かな生涯を、何かそういうような安らぐことができる社会づくりという非常に高邁な言い方をしています。

ところが、ほとんど強化選手の育成という視点になっていってしまうのですが、このスポーツ基本法っていうのは、もっと社会をよくしようという視点があると思うん

ですね。したがって、大勢の子どもたちがそういう運動離れとかいろいろある、これをどうするかということになると、総合型のスポーツクラブにお願いするところが多くなってきます。そういうことで、今、いろいろ取り組んでいただいています、現実問題、今それを支えているのはサッカーくじの助成です。ところが、最近厳しくなってきました、助成もどんどん落としてきています。いよいよ東京オリンピックという中で、強化選手の育成費ということから、多分この総合型の部分の助成がなくなってしまうのではないかと思います、こっちの精神というものが一体どうなってしまうのかと思うわけでありませう。

ということからすれば、いろいろ大事なのですが、もっともっと大事な本当に根本的なものは何かあるんじゃないかなというふうに思うのです。社会づくり、そして健康長寿、この運動の部分を支えるのはスポーツであり運動ということですから、そういう視点で考えていけば、ぜひまたこの辺のところもバランスよくやってほしいなど、思っているのですが、強化は絶対必要なことですし、そういうことも社会全体をどうしようかというのも大きなスポーツ振興の役割じゃないかなと、そんなふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### (藤沢会長)

私から一つだけ申し上げたいことが。

私、先ほど自分の研究のテーマ申し上げたのですけれども、その中のかつて調査・研究をやった中で、女子中学生及び高校生のボディイメージと保健行動という研究をしたことがあります。これはさっきの青木さんの話に出た今の思春期というか、そういう発育が大事なときに、自分の望ましい身体図を、理想図を、体型とか含めて、そういうものがどういう形で作られてくるのかという研究なんですよ。そのイメージが行動を決めるという仮説なんですよ、イメージが行動を決定するという。その子がそのボディイメージ向かって達成するために行動するので、体力づくりなんていうのは絶対考えず運動離れが起こるわけです。だから、学校体育の中でも家庭でも、体というものが何であるかという根本に返った基礎教育というようなものができていくということは非常に大事じゃないかなということを感じたんですけれどね。

そんなことが一つ、だから学校教育の中で体力向上ということを考えても体づくりを考えたら健康増進から考えても、そういう総合的な教育の一環の中で、やっぱり教えられないと毛嫌いなっちゃうというか、強制させられるとかそういうことになっていってしまうような気がします。

時間が押しているのですが、ぜひここでもう一つ。

#### (甘利委員)

すみません、なるべく短くまとめます。先ほどから出ている総合型地域スポーツクラブの関係で、私も関わってきて勉強したことは、総合型地域スポーツクラブに不可欠なのは理念、ミッションと経営力、この二つが外れたら何事も続かない、始まらないということをおぼせていただきました。

総合型地域スポーツクラブの新キャッチコピーができたようです。従来のいつでも

どこでもではなく、動かせ心、つなげ人、地域の輪になるスポーツクラブだそうです。やっと理念が見えてきたキャッチコピーだなと思いました。総合型というのを多種目多世代という捉え方ではなくて、今までのスポーツの枠を取り外して福祉ですとか、観光ですとか、産業ですとか、その地域の特性を生かしたさまざまな分野とコラボしながら地域の課題を解決していく、そのために役立つクラブというふうに捉えるとスポーツ基本法の理念にもより合致してくるというふうに感じております。

先ほど山岸委員からのお話もありましたけど、本当に経営は大変です。総合型地域スポーツクラブが一番手っ取り早く指導者を確保して入っていきそうな仕事は、幼児期の子どもたちの運動指導であったり、介護予防の部分の運動指導だったり、そういう部分だと思います。行政からお金をもらうクラブではなくて仕事をもらえるクラブになりなさいということも言われました。なので、ぜひスポーツ課もスポーツ課の枠を取り外して、総合型クラブが福祉課などの管轄の仕事に入っていくって地域に貢献できるような、ぜひそういうことへの手助けをしていただけるととてもうれしいです。

それから、先ほどお話しした県内のスポーツ関係のNPOの中には、今申し上げたようなことが本当にしっかりできていて、これぞまさしく地域総合型ではないかというような活動が幾つもあります。なので、そこどうまくコンタクトをとって、総合型地域スポーツクラブ連盟に加入してもらうことが可能であれば、目標の2万5000人にも結構近づくな、なんていうことも思ったりしました。

それと、大きな課題ですが、前段でも申し上げたように、総合型の中でも法人格をとって事業を始めているところが本当に幾つもあります。ぜひ指導者の雇用というものの、総合型クラブが指導者を雇用していくということへの支援にシフトをしていただけないだろうかということ強くお願いいたします。

すみません、ありがとうございました。

#### (藤沢会長)

教育長さん、何か、コメントいただければと思います。

#### (伊藤教育長)

たくさん大変すばらしいご意見をち頂戴いたしまして、もう少し早く伺えば新年度の施策に反映できたものもあるかなと少し後悔している面もございます。

私もちょうどロンドンオリンピックの後、東京で、銀座で100万人が大濶歩したというパレードの企画に早い段階で関わったことがあるのですが、実は今週後半にスキー・スケート同じ日にならなかったのが残念だったのですけれども、オリンピックの方がこちら県庁のほうにお越しいただいて、知事が表彰させていただくというような機会があったりしました。本当はそういうときに一堂に来ていただければ、それこそちょっと寒い日もありますが、オープンカーじゃないですが、少しパレードをしながらもっともっともう一度感動を呼び起こしたり、お金をかけるだけではなくても、いろんな知恵を出さなければいけないなというふうに思いました。

最後の総合型スポーツクラブに対してもたくさんご意見をいただきました。本当に理念として私も全くこれを進めていきたいと思いつつながら、サッカーくじの助成金のほ

うも少し先細りというか、この先どうなるのだろうかというような不安があるのも事実でございます。今ご指摘いただいたように、例えば地域の元気づくりとか福祉とか、そういう総合的な観点で言えば、実は県の中でもスポーツ課の予算以外でもうまく使えるお金というのがあるし、恐らくうまく使っているところもあるんだと思いますので、逆に言うとそういうノウハウとか、こんなものは我々が積極的にもっと集めて発信をしていかなければいけないなというふうに思いました。

今日、短い時間で委員の皆様にはもっとももっとご発言をいただければよかったんですけども、まだ今回で終わりというわけではございません、これからスタートでございますので、いろいろご意見をいただきながらできることは新年度からもやりたいですし、その次の年度に向けての予算の編成等も含めて、いろいろ勉強をさせていただければと思っております。

ありがとうございました。

#### (藤沢会長)

どうもありがとうございました。

予定した時間、ちょっと 10 分ほどオーバーしましたが、私も委員の方からいろいろなお話をお聞きしたいという思いあるのですけれども、一応、この程度にさせていただきます、これからは委員の方には県内のスポーツの推進発展にぜひご協力いただくことをしっかりお願いして、本日のこの会議は終わらせていただきます。

事務局のほうで何かありますか。

#### (内山企画幹)

どうもありがとうございました。

その他のご連絡事項をさせていただいてもよろしいでしょうか。

本日の審議の内容でございますけども、テープを起こしまして、後日各委員さんにご確認をさせていただくようになります。ご確認をいただいた後は県のホームページに掲載させていただきたいというふうに思っておりますので、またよろしくお願いたします。メールまたは郵送でお送りさせていただきます。

また、次回の審議会でございますけども、本年の秋口、9月ぐらいを目安にまた開催させていただきたいというふうに思っております。改めて日程調整をさせていただきたいと思っております。その場では先ほど最初に申し上げましたとおり、計画の評価・検証等をまたお願いする予定でございますので、よろしくお願いたしたいと思います。

連絡事項は以上です。

#### (藤沢会長)

それではどうもありがとうございました。

#### (内山企画幹)

以上をもちまして本日の審議会を閉会とさせていただきます。

どうもありがとうございました。